

国語

➔ 3年生 | 「語彙指導」

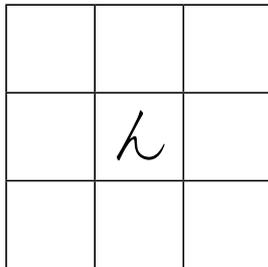
ひらがなと漢字でことばをあつめよう

—ビンゴを使った辞典の活用—

1. はじめに

ことばに興味をもちながら、新しいことばとの出会いを楽しむために、辞典を活用して欲しいと思います。そのためには、まず楽しさが必要となります。

2. 〈プラン1〉 ひらがなビンゴで国語辞典活用



答えは、例えば次のようなことばが入ります。

か	ら	し
か	ん	じ
し	ち	み

3文字のひらがなをビンゴのマスに入れて、縦横（左から読む）斜め（上から読む）、全てが意味の通じることばになるようにします。方法はいくつか考えられます。

- (1) 一人で、自分の知っていることばを当てはめて考えてみる。
- (2) 国語辞典を使って、ことばを探しながら当てはめてみる。（この場合には、辞典の引き方を先に学んでおく必要があります。）
- (3) 班で協力しながら当てはめる。

このビンゴは、15分以内にいくつのことばができるかで点数を競うというルールで行います。最高8個のことばができますが、完全にできれば10点とします。他は、できたことばの数だけ点数に入れます。例えば、6個で8点、4個で5点というように、子どもたちとルールを決めるといいでしょう。

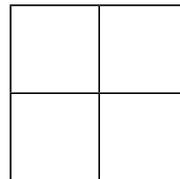
(1)から(3)を組み合わせて取り組むこともできますし、それぞれで点数を競うこともできます。子ども

たちのレベルに合わせて判断しましょう。

3. 〈プラン2〉 漢字ビンゴで漢字・漢和辞典活用

次は、漢字のビンゴです。2つの漢字を使った熟語を作ります。これもひらがなの場合と同じように、縦、横、斜めで意味が通じることばにします。

漢字の場合、「前後左右」「東西南北」などの方向を示すものや、人名を入れてしまうと簡単にできるので、それはしないようにします。やり方は、ひらがなビンゴの(1)から(3)に準じます。



答えは、例えば次のようなことばが入ります。

学	年	学	校	新	緑
長	期	区	長	茶	色

4. おわりに

新しい指導要領では、語彙力を高めることが課題として示されています。この2つの実践のポイントは、修行のような訓練ではなく、辞典を引く必然性が生まれることと、ゲームをしていく中で競い合うことによって、遊び感覚で自然に辞典の引き方を覚えることです。

ひらがなの場合には、真ん中を「ん」と指定して取り組んでみました。真ん中を指定しない場合もありますが、その場合にはより難易度が上がります。

漢字は、文字数を増やすということも考えられますが、これは前回紹介したことばの段階の3段階までくらいにしておくことで適度な時間で解答ができ、モチベーションと達成感が生まれます。